

函館市教育振興フォーラム 開催概要

Q & A セッション「コミュニティ・スクールの活用にあたって」

回答者 四柳 千夏子 氏（講演講師）

司 会 堤 勝幸（函館市教育委員会学校教育政策推進室学校再編・地域連携課長）

Q1)

コミュニティ・スクールにして学校や地域が変わったという事例を教えてください。

A1)

うちの学校の非常にわかりやすい例をお伝えすると、先生方が私たちに挨拶をしてくれるようになりました。それから、先程のお話しの中にもありましたが地域も、このコミュニティ・スクールになったことで、少しずつ考え方が変わってきて、自分たちのやってきたことは、この子どもたちの育成にどのようなにつながっているのかということ、逆にたどっていくようになりました。例えば、青少年健全育成団体で毎年やっていた、小さな「善行賞」という取組がありまして、子どもたちがやった小さな行いを先生方や保護者の方に推薦用紙を書いていただいて、推薦が上がった子どもたちを表彰していました。これはもう何十年とやっていたことですが、昨年たまたま学園の方で、子どもたちの自己肯定感が低いというアンケート結果が出てきました。そしたら育成団体の会長さんが、私たちがやってきた善行賞は絶対にこの子どもたちの自己肯定感を高める一助になるはずとってとても力を入れ始めました。これは学園の課題解決のための一助になるので、自分の活動を見直すようになった。これを委員会の中で見直して、もう少しきちんと、子どもたちの表彰制度を改めていこうと、子どもたちにちゃんと表彰の内容が伝わるようなやり方に改善するようになってきた。これは自分たちの活動を見直す本当にいい変化になったと思っています。

Q2)

コミュニティ・スクールの充実・発展のためにどんなことに留意しなければならないか教えてください。

A2)

まず、学校と学校運営協議会の立場、立ち位置ですが、学校運営協議会は学校の下部組織ではありません。そして、例えば圧力団体など、そういう団体でもありません。学校と学校運営協議会是对等な立場で話し合いをしていく、そういった立ち位置が大切になってくると思います。何かものを申す団体でもない、学校と地域と一緒に子どもたちを育てていく、そのために何ができるのかを考えていく、そういう組織だということです。それからこれは学校側にお願いしたいことですが、そういった学校運営協議会の場でどれだけ学校が、学校

の情報を開示できるか、というところが非常に大事になってくると思います。学校運営協議会委員は、三鷹の場合、学校運営協議会委員は三鷹市から委嘱を受けている特別職非常勤公務員という立場になります。そうすると非常勤の公務員ですから、守秘義務が発生するわけです。私たちは自分たちの規定の中に守秘義務があるということがきっちり規定されています。この守秘義務を違反した場合には、学校運営協議会委員を辞職しなければならないという規定もあります。なので、そこは学校や先生方がどれだけ学校運営協議会を信頼して情報を開示できるかということです。ただし、じゃあ例えば私たちの三鷹の学園の中に非常に課題のあるお子さんがいて、何年何組の〇〇君がということがありますけれども、そういう話が出たことはありません。個人名も出たことはありません。それは、例えば経済的に困っているお子さんであればそういう支援の手がありますし、あとは外国籍のお子さんとしての課題があるのであればそちらの支援の手がありますので、そちらの方で課題が解決します。私たちはあくまで、学校全体の課題を解決するためにどうしたらいいのか、ということでの情報の開示が必要になってくるのではないかなと思います。

Q3)

コミュニティ・スクールの導入に係わって、PTA、町内会、学校とのつながりが変化するのはないかと思う。連携に係わって配慮すべき点や良い先行事例があったら教えてほしい。

A3)

やはりいろんな立場の方、いろんな団体の方が関わりますので、それをつなぐ、核になる人たち、キーパーソンが必要になってきます。今、もしここにいらっしゃる校長先生方の頭の中に、うちの学校だったらあの人にやってもらいたい、あの人がいる、その方の顔が浮かんでいらっしゃる先生は、その方にお願ひするといいと思います。そして、まだそういう方がいらっしゃらない、これからという方は、例えば地域のこともよく知っている、地域に人脈がある、そして学校のこともよくわかってきている、学校を応援しよう、もしくは学校の文化だったり学校の風土だったりもよく理解してくれているそういう方が、もし居たら、ぜひそういう方を頼りにしていただけるといいなと思います。そしてもしこの会場の中に、私かなと思う方がいたらぜひやってみてください。私は、PTAの会長をやっていて、PTAの活動は終わったのに、いろいろ頼まれごとをしました。そのときに、なぜ私がやらなければならないのだろうと思っていました。私じゃなくていいだろうなと思っていました。そのときにたまたまこういう講演会があってそれに参加してみたら、どういう大学の先生だったかもう覚えていませんが、テーマが、どうして町会や自治会が形骸化しているのか、という話でした。なぜ形骸化していると思いますか皆さん、と言われて、なぜだろうと思っていたら、会長を輪番制にしているからです、と言われたんですね。もし自分が会の中心になって動いた方がすべて丸く収まるなど、私がやった方がいいなど、今ここにいらっしゃる方の

中でいたら、自分が腹をくくればいいんですとその先生がおっしゃったんです。私はそのとき雷に打たれたようになってしまって私がやればいいんだとなって、でも本当に自分が腹をくくってみたら、あんたがやるのだったら協力するわよとってくださいましたし、学校の方も頼りにしてくださるようになった。それでうまく回るようになっていきました。なので、私は自分になりたいくなったわけではないですが、自分がやることで、すべてがうまくいくのかなと思ってしまったことが端を発しているんですが、もしここにそういう方がいらっしゃったら、あるいはご自分の周りにそういう方がいらっしゃったら、ぜひそういう方に学校と地域をつなぐコーディネーター役になっていただくことを強くおすすめします。その方が最初のうちはがんばらなければならないかもしれませんが、がんばっている姿を見たらいろんな方が協力してくださいます。なので、ぜひそういう方になっていただきたいなと思います。

Q4)

学校運営協議会の効果的な開催回数を教えてほしい。

A4)

絶対にやらなければならない回数は決まっておりませんので、その学校ごとで回数を設定して構わないと思います。何回集まらなきゃいけないかは、どれだけ仕事があるかということによろと思います。私たちは学校関係者評価も関わらなきゃいけないので、その会議もあり、そして先程もお話ししました教職員の任用に関する会議もあり、学園全体のまとまりの中での、例えば防災教育の話し合いであったり、テーマを設定して熟議を進めるということもあり、これを言うと皆さんに引かれてしまうのですが、8月を除く月1回会議を持っています。なので、年に10回か11回やっています。会議やらなくていい、いらなかったなという月があったかというあまりなくて、7月と12月は暑気払いと忘年会がセットになっているので、時間を短くして、早く終わらせてみんなで食事に行くということでやっていますけれども、それはそれで、それぞれの委員会がそれぞれでやらなきゃいけないものに回数はよろと思いますが、はじめのうちは、やはり生みの苦しみがあると思ってください。私たちも最初の頃はやはり生みの苦しみがありました。2年くらいかな。ありました。やっとうまく回っていけるようになったのは、2月に先生方が作成した教育課程を含んだ大量の資料を私たちが読めるようになってきた頃です。その頃になってやっど、会議をうまく運営できているなとかんじるようになってきました。時間がかかりますけれども、みんなで創り上げていただければと思います。

Q5)

学校運営協議会の委員だけでは活動に広がりがない。PTAや地域等の協力が重要であるが、学校運営協議会だけで完結させず、そういった組織としっかりと連携していくために、こういった工夫が考えられるか教えてほしい。

A 5)

一番わかりやすいのは、みんなでやれるイベントをやることです。イベントといっても大きなことではなく、小さいことでよいのですが、あいさつ運動をするとか、子どもたちと一緒に朝おはようございますと言い合う。これを子どもと学校だけがやるのではなくて、地域の人も、PTAも、おやじの会もみんなでおはようございますと。何かみんなのできるちょっとしたイベントをみんなでやるというのを企画すると。これが一番わかりやすいです。一番成功体験を持ちやすいです。ただ、イベントをするということは企画をしたりすることは大変なことですから、できる範囲でいいかなと思いますけれども、それと三鷹中央学園では、私が代表理事となって別組織をつくっています。これは学校支援を専門に行う、いわゆる実働部隊です。これは、私が代表理事を務める一般社団法人みたかSCサポートネットという団体で、コミュニティ・スクール委員会から依頼されたことを支援していきます。私ともう1人代表理事がいますが、2人でPTAをしていたときに一緒に役員をやってくれていた人たちが集まって、子どもたちのために何かやってくれないかと頼んで集まってくれた人たちで、その人たちで団体をつくって、そちらが実働するという形をとっています。そういう形もとれるかなと思います。

Q 6)

学校運営協議会の単独と複数校設置におけるメリットとデメリットを、教えてほしい。

A 6)

先にデメリットのお話しをします。私たちは複数校なのでやはり会議の深堀りができない。3つの学校の学校運営協議会を1回でやってしまうので、1つの学校の学校運営協議会の時間が短くて、だいたい20分くらいしかないので、1つの学校の課題を深堀していくことが少し難しいかなと、定められた会議の中だけだと難しいかなと思います。これがデメリットです。メリットですが、三鷹の場合は中学校区ごとに学校運営協議会が設置されていて、小学校は小学校、中学校は中学校かもしれませんが、1人に子どもを見ていく上では、義務教育9年間、義務教育が終わる15歳の姿に責任を持つ、というのが三鷹市の教育委員会が強く言っていて、これは学校も地域の皆さんも15歳の姿に責任を持ってくださいと言っています。1人の子どもを見ていったときに、小学校で終わりではない。中学校だけでもない。やっぱり小・中9年間を見て、そしてそこを巣立っていく姿を見届けていくということは、非常にメリットがあると思います。特に中学校側にメリットがあると思っています。

Q 7)

学校運営協議会が今年度設置されて、何かやらなきゃという焦りや、手探りな部分もあり、意見もあまり活発に出ないのが現状です。設置1年目として、協議会でこれはぜひやったほうがいいというようなことがありましたら、教えてほしい。

A 7)

まずは、あきらめないで話し続けるということが大切ですが、委員さんの懇親をまず深める、ことが大事なのではないかなと思います。いろんなお立場の方々がお集まりのようなので、まずは委員さん同士の相互理解を図るということが大切かなと思いますし、あとは決して焦らないでほしい。この制度はこの先ずっと続くので、1年2年であきらめることではない、1年2年で築けるものではないので、本当に長い目で見ていっていただいて大丈夫かと思います。そういった不安を抱えている人がいるということ自体が大丈夫だと思いますので、本当にあきらめないで続けていっていただければと思います。あまりお答えになっていないかもしれませんが。がんばってください。

Q 8)

学校運営協議会の取組でPTAや地域と学校をつなぐときにどのような苦労があり、どういう取組をしてきたのか教えていただきたい。また、学校運営協議会とみたかサポートネットのつながりも教えていただきたい。

A 8)

まずつながりの苦労ですけれども、たしかに苦労しました。そこには丁寧な説明というのが、それぞれの団体での丁寧な説明というのがまず1つ。それからその団体から学校運営協議会委員になっていらっしゃる方がいらっしゃったら、そしたらまた今度自分の団体に帰ったときにフィードバックしていくというような仕組みをつくっていくと、だんだん、例えばPTAの中に理解が深まったりとか、1番理解をしていただかなければいけないのは保護者の皆さんなのでそこをどのように周知をしていくのかということで、私たちは毎年4月に保護者会の場にコミュニティ・スクール委員の役員が出て行って、コミュニティ・スクールとはどんなものかということを、学校とは別に説明させていただいたり、あとは先程のようにコミュニティ・スクールとはどんな学校というのをプリントにして保護者の皆さんに配ったり、あとはコミュニティ・スクールだよりという広報紙をつくったりということで、どれだけ周知ができるかということを工夫しています。

それから、サポートネットのことですが、サポートネットは実働部隊として、たとえばこういうことをやるけれども事務局をつくってと言われれば事務局をつくったり、評価のアンケートをやります、印刷のお手伝いをお願いしますと言われたら、そこで印刷のお手伝いをしたりとかするような実働部隊を作っています。メンバーは、18人おまして、社団法人にしましたので、微々たるものですが謝礼をつけられるように、有償ボランティアになるよ

うに自分たちで仕組みを作ってお手伝いをしてもらっています。そこは人材バンクというよりは実働部隊としてやっています。それとは別に学習ボランティアという組織が学園の中にはありますけれども、それは学校運営協議会が管理・運営しております。保護者・地域の方が200人ほど登録していて、実際に授業に入ってお手伝いいただくことを、ヤフーのフリーメールを使って一斉にメール配信をしてボランティアの依頼をしてボランティアに入っただくという仕組みをつくっています。そういったところもありますし、学校運営協議会自体に地域人材担当という方がいて、学校が伝統文化の授業をしたいとなったら、三味線を弾ける人とか人材を見つけてくる、確保してくるということは学校運営協議会のメンバーが組織としてやってくださっています。